

# 後悔先に立たず・・・

## I・T 会社員(二十四歳)

「この先の生活が不安で仕方がない・・・」裁判で遺族の方が言われたこの言葉を思うことで、今の私の償いの毎日が始まりました。

その年の夏、私は片側2車線が交わる交差点で、通勤途中の方の右折待ち軽自動車に、側面から衝突し

横転させ、死に至らせてしまいました。原因は、お酒に酔っていて正しい運転が出来ず、信号を見落とすといった悪質で、一方的な私の責任によるものです。その時私は、何故自分が普段運転したこともない道にいいのか、理解することが出来ない程、お酒に酔っていました。更に事故前、

友人とお酒を飲んでいたので、なんと事故時は、その友人を乗せ、友人の車を運転していたのです。そのことすら思い出せない程、お酒に酔っていたのです。アルコールの呼気量は、0・6mgでした。

私はその場で現行犯逮捕され、警察署で被害者が亡くなられた事を知られました。私は、どうしたら良いのか分からなくなりました。さらに、ご遺族の方から私の知らない被害者の方の家庭状況も聞かされました。大学に進もうとするご子息、持病を抱ええ生活を不安に思う奥様。そのような家族を支える方の命を奪ってしまっ

たのです。私は、「何故自分が生き残ってしまったのか」と涙が止まりませんでした。代われるのなら代わりたくない思いで一杯になりました。しかし、そうすることはできないのです。

私は今、「何故飲酒運転をしてしまったのか」と、後悔し続け2年が経ちました。私は、懲役3年8ヶ月に処され、現在市原刑務所で受刑生活を送っています。そして、この生活は多くのことを学び、考えさせられる場となっています。お酒を飲み運転してはいけないという法律を守れなかった私にとって、刑務所内の定められた動作、物の使用方法などを厳密に管理され生活することは、自分を見つめ直すのに効果的だと認識しています。普段の生

活から離れ、毎日自身のしたことを後悔し続ける今の環境は、もう二度と同じことがないようにするために、本当に必要だと思っっています。刑務作業も自身の更生のために、どんな意味があっても行っているのか、考えるようにもなりませんでした。常に今の自分を被害者の方が見ていると思っ、気を引き締めて生活を送ろうと思うようになりました。そのすることが、正しいのか、それが償いになるのか、反省になるのか、全く分かりません。しかし、生き残る道を与えられた以上、答えは見つからなくとも、被害者の方、ご遺族の方々へ出来る精一杯のことを尽くし、もう二度と法律を破ることのない人間に更生したいと思っます。

もし、私が事故前に、こ

の手記を読み、少しでも事故によって悲しむ人の気持ちを理解する機会があったのなら、今と違う人生を送れたのかと思うことがあります。でも、もう時間は戻りません。亡くなった命は、二度と帰ってきません。だから私は、この手記を書き、自分の経験を伝えることで、少しでも交通犯罪を受け、悲しむ被害者が減ることを願っています。「後悔先に立たず・・・」そんな思いをする人が、どうかいなくなるようにと強く祈り、ペンを置かせていただきます。

「贖いの日々」

第48集(平成25年版)より抜粋

転載・二次使用を禁止します。